八十余年の人生を回顧して

天理よろづ相談所病院・前理事長の横山氏

火曜午餐会・７月第１例会は７日12時15分から当部５階大会議室で開催した。講師に公益財団法人天理よろづ相談所病院・前理事長で天理教教会本部本部員の横山一郎氏を招き「八十余年の人生を回顧して」をテーマに語って頂いた。横山氏は今後の人生について「色んな方のお話を聞かせていただき、いろんな経験をさせていただいて本当に有難い。これからも頑張らなければいけない」と語った。講演要旨は次の通り。

私は昭和10年の生まれ。幼稚園の時に大東亜戦争が始まり、小学１年から５年まで、戦時体制に即応した国家主義的な教育を行なう「国民学校」で教育を受けた。凄い軍国主義教育で、今でも「教育勅語」を覚えている。

戦争末期は、日本には戦闘機もなく迎撃も出来ない状況の中、畝傍中学にあった菊の御紋を米軍の戦闘機が撃ちに来た。その音の凄さは未だに忘れられない。

戦争が終わった時にはホッとしました。食べ物もなく、よくここまで生きて来られたと思います。

継続は力なり

戦後すぐに始まった夏の全国高校野球大会。昨年で101回。これほど続いている高等学校の競技は世界にもあまりない。「継続は力なり」と言われるように凄いこと。また、日本の長い歴史の中、100年以上続いている企業が2,000社から3,000社あると言われている。竹中工務店で400年、錢高組で300年の歴史がある。一番古いのが四天王寺を建築した金剛組で1,450年。世界でも一番古い。奈良県内でも墨づくりの古梅園が440年、大宇陀の森野旧薬園も400年、そして橿原のだんご庄でも120年。

ロンドンの有名な百貨店のハロッズでも180年ですから、如何に日本の企業が長く続いているかが分かる。

老舗に共通しているのは、創業時の理念を大切にしていること。そして不易流行で時代に応じた対応をしていく。社長も社員も同じ目標を持っており、企業内の風通しが良い。そして謙虚さ。慢心傲慢は企業を滅ぼす。人のため世のための利他の心がある。本業以外にあまり手を出さない。これらが老舗の重要な点だと聞かされている。

やはり日本は伝統を重んじて続いているというのは素晴らしく凄い民族であり、日本人が誇りにすべきところです。

日本は長寿国

日本の平均寿命は、女性が87.32歳、男性が81.25歳。この長寿も企業と同様に日本人の誇るべきことだと思う。

しかし、健康寿命という人に迷惑かけずにピンピンコロリを皆さん願っておられるが、なかなか思い通りにはいかない。実際の寿命より約10年短い。ですから、若いうちから健康寿命を考えることが本人にとっても国にとっても良い事です。

健康とは、身体だけが丈夫なことではない。ＷＨＯの健康の定義は、肉体的・精神的・社会的に良好な状態のこと。

106歳で亡くなられた聖路加国際病院の理事長をされていた日野原先生が「心生き生きしなさい」「いつも音楽に親しみなさい、聴く・歌うこと」「早起きは『三億』の徳」「神の存在を信じる」「老いてからの出会いを大切にする」「指先を使いなさい」「いつも笑って深呼吸しなさい」と仰っておられた。

また、107歳まで生きられた彫刻家で文化勲章も受賞された平櫛田中。この方が残された言葉に「実践実践また実践、挑戦挑戦また挑戦、修練修練また修練、やってやれないことはない、やらずに出来るわけがない、今やらずしていつ出来る、俺がやらなければ誰がやる」。凄い言葉だと思います。

日野原さんや、平櫛さんが仰った気構えを持つことも、健康寿命を延ばすために必要ではないかと思います。

天理よろづ相談所

ほとんどの病院は医療法人ですが、天理よろづ相談所は、公益財団法人です。昭和10年に天理教二代真柱の中山正善が、教義だけではなく医療機関も必要だと開院。医療部・相談部・厚生部の三部門を作られ、総合的に患者さんをお助けする。それで「よろづ相談所」と名前を付けられ、昭和41年の増築後、「憩いの家」という名前で呼ばれるようになった。さらに京都大学の全面的協力をいただき、40人の医師を派遣していただいた。そして新しい体制で、医療、心のケア、厚生面のお世話を現在も続けさせていただいている。

現在は、身上部・事情部・世話部に名前を変え、創設の理念を忘れることなく医療にあたっている。具体的なモットーとしては「笑顔と親切」。地域医療の上、しっかりと貢献させていただけなければならないことがよろづ相談所の活き方です。

私自身、色んな方のお話を聞かせていただき、いろんな経験をさせていただいて本当に有難く、これからも頑張らなければいけないと思っております。